
獄潰し ～下着泥棒とおしゃれ泥棒の違い～

雨月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

獄潰し　く下着泥棒とおしゃれ泥棒の違いく

【Nコード】

N4006I

【作者名】

雨月

【あらすじ】

少女が洗濯物を取り込もうとするとそこには……全身タイツにほっかむり、背中には泥棒さんご愛用の唐草模様の風呂敷という男がいたのだった。

獄潰し　く下着泥棒とおしゃれ泥棒の違いく

一人の少女がベランダへと続く引き戸を開ける。そこには先日分の洗濯物が干されているはずだった、いや、きちんと干されて入るのだが今まさに収穫手前の果物宜しくその一つに手を伸ばしているやからがいるのだった。正確には、ブラジャーにだが。

「し、下着泥棒!?!」

「失敬な!」

今頃ほっかむりをしている泥棒なんていないだろうに。そんな男は全身タイツを纏っており、背中には泥棒さんご愛用の緑色の風呂敷をつけている。

「僕は断じて下着泥棒ではありません、僕はおしゃれ泥棒です!」

言い切った感じがあったがその手にはしっかりと女性もの下着が握られているので十人が見たって十人が突っ込むに違いない。もちろん、少女はその中の一人だ。

「で、でも下着を……」

「しっ!」

「むぐっ」

少女の部屋にそのまま転がり込んで少女の口を手で押さえる。しばらくの間そんな犯罪まがいの状態で二人とも静かにしていた。

「……危ないところでした。もう少しで僕が警察に捕まるところでしたよ」

「……」

つかまっていたいいのではないのだろうか? いや、つかまるべきだろう。そう思った少女だったが静かにしておいた。何をされるかわからないからだ。

「まず、下着泥棒は下着しか、正確には女性物の下着しか盗みませ

ん。男物の下着が盗まれたという話は聞きませんかね」

「ま、まあ、そうでしょうね」

そらあ、そうだろう。ブリーフに手をかけて逃げ出す下着泥棒を見たことがない、聞いたことなんてなおさらない。第一に下着泥棒を見つけること自体難しい。

「最近盗まなくてもお金で変える時代だそうですし」

「え？」

「それで、おしやれ泥棒はおしやれを盗みます」

「そのまんまですね」

「ええ、われわれはわかりやすいのがモットーですから」

少女はここで一つ、というより当初からの疑問を聞いてみることにした。

「あの、あなたはおしやれ泥棒なんですよね？」

「ええ、おしやれを盗むおしやれ泥棒です」

「でも、リボンとか他の服とか……おしやれそうなものも外に干してたと思うんですけど？」

おしやれ泥棒はふっと笑ってこういったのだった。

「……残念ながらわれわれはその本人がおしやれだと思っても周りから見たらぜんぜんおしやれじゃない、というより似合っていないものをおしやれだとは思いません」

「ええっ!？」

「身分相応のおしやれを盗む、それがわれわれおしやれ泥棒です……現に、証言DVDも持ってきていますから」

後ろの風呂敷からノートパソコンを取り出してなにやら操作を行う。すると、画面にモザイクがかけられた人物が現れる。

『あゝ、あの子? うんうん、本人おしやれしているみたいだけど時代遅れ? っておもってるしいゝ似合っていないって言ってあげるのお、めっちゃ大変! っていうより、いえないいえない(プライバシー保護のため音声を変えております)』

「……泥棒のくせして音声とかモザイクとか……」

「ええ、ちゃんとしめますよ……で、あなたの行動をここ一週間見させていただきましたが今回われわれの厳密な審査を通り越したのがこのクマさんパンツだと判明したのです。あ、では僕はこの後も用事がありますのでこれで失礼します」

手を振って身軽に窓から出て行ったおしゃれ泥棒を見ながら少女は闘志を燃やすのだった。

「……音声変えてたけど……あいつに違いない！」

「えー、泥棒は昔からいますが……」

なぜか泣きながら壇上で挨拶している校長先生とそれをくすくす笑いながら見ている生徒たち。

「…あの校長、ズラだったのか……」

「きつとおしゃれ泥棒に盗られちゃったのよ」

「可哀想にね」

—————

「香、あんた私のことをそんな目で見てたのね？」

「はあ？」

「おしゃれじゃないってあんたのほうがおしゃれじゃないじゃない！」

「意味わかんないこと言わないでよ！」

「それなら……あんたのところにおしゃれ泥棒、来たっていうの？」

「……」

「はっ！やっぱり何も盗まれてないのね？私のほうがまだましだった！」

「なんですってえ！！」

こうして、おしゃれ泥棒は友情というものも盗んでいったのだった。

(後書き)

まあ、たまには泥棒物もいいでしょう。しかし、真似してやったらつかまりますよ。下着を盗むのは言わなくてもわかるでしょうが犯罪です……けど、男の下着って盗まれても絶対事件にならないような……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4006i/>

獄潰し ～下着泥棒とおしゃれ泥棒の違い～

2011年1月20日14時38分発行